

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2022年度) 評価結果報告書

2023年1月24日

社会福祉法人森友会
すこやかな森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号

機構 03 -

081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1002063	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑤		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	すこやかな森保育園			
事業所連絡先	〒	187-0011		
	所在地	東京都小平市鈴木町2丁目865番地の8		
	TEL	042-316-1310		
事業所代表者氏名	齊藤 敦司			
契約日	2022年	8月	1日	
利用者調査票配布日(実施日)	2022年	9月	12日	
利用者調査結果報告日	2022年	11月	24日	
自己評価の調査票配布日	2022年	9月	10日	
自己評価結果報告日	2022年	11月	24日	
訪問調査日	2022年	11月	30日	
評価合議日	2022年	11月	30日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査では、開始時の書面配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 なお事業所と協議のうえ、質問には共通項目に加え、独自の項目も設けて調査を実施した。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

<p>1</p>	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもの最善の利益のために「心身の調和的発達」を促す保育 すべての子どもが、自分のペースや意思決定で園生活を楽しむ。 ・すべての子どもの最善の利益のために「基本的な生活習慣」の育成を進める保育 すべての子どもが、無理なく自立への道を進む。 ・すべての子どもの最善の利益のために「集団への参加と自主協調の態度」を養う保育 すべての子どもが、協力・協働の喜びを知る。 ・すべての子どもの最善の利益のために「正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味と関心」を育てる保育 すべての子どもが、自然・社会に積極的に関わる ・すべての子どもの最善の利益のために「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎を培う」保育 すべての子どもが、自分なりの表現を楽しんで発表する。
<p>2</p>	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>社会人として世の中の規範を守り、人には優しく常識的な行動をとるとともに、保育士として子どもたちに温かい心を持って丁寧に接してもらいたい。 主任、リーダー等の上位職にある人に関しては立場を自覚し、リーダーシップを持って各フロアの職員を率先して引っ張りながら、人間関係の潤滑油となるよう努め、チームとしてまとまることを目指してもらいたい。経験の浅い職員は法人保育への理解を深める努力や自分の目指す保育士像を意識して自己研鑽に励んでももらいたい。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>子ども達の「最善の利益のために」を常に考えて子ども達に接するようにする他、子ども達の自主性・自発性を促す事ができる生活環境、遊びの環境、行事計画を行ってもらいたい。 職員は「保育士」としての自覚と責任を持ち、普段からの服装・態度・発言等を常に意識した行動を取り、他者との協調性を図り、保護者に信頼される人間関係の構築を行ってもらいたい。</p>

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯57(在籍児童数63)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数	63
利用者家族総数(世帯)	57
共通評価項目による調査対象者数	57
共通評価項目による調査の有効回答者数	50
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	87.7

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」50.0%・「満足」42.0%の計92.0%と高い値を得ており、設問別でも「整理整頓・清潔」「発達に配慮した保育活動」「子どもの気持ちの尊重」など全17問中14問で80~90%台の高い支持を得ている。自由意見では「異年齢の子とも一緒に生活することで、自然に学び、関わり合いを知っていくことができ、やりたくないという子の意思を尊重しつつも誘ってくれ、自分のやりたいことをやりたいだけできることがよい」「子どもの自主性を大切にしてくれ、興味のある遊びにことごとん打ち込める環境があり、嫌がることを強制しないので、子どもがのびのびと過ごせていると感じる」「家ではできない遊びや経験をさせてくれ、イベントもしっかりとやってくれる」「日中の保育園での様子や些細なケガ等について、お迎え時や連絡帳で詳しく話してくれ、子どもを見ただけではわからない部分も知ることができてうれしく、ケガについては翌日も確認されるなど、連携が取れていることがわかる」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては、戸外活動等の日中の活動内容、子どもの様子の報告、職員の接遇や行事に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	48	1	1	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が96.0%、「どちらともいえない」が2.0%、「いいえ」が2.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	44	5	1	0
「はい」が88.0%、「どちらともいえない」が10.0%、「いいえ」が2.0%となっている。 自由意見には同年齢での活動について、さらなる充実を望む声が1件寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	46	4	0	0
「はい」が92.0%、「どちらともいえない」が8.0%となっている。 自由意見には、食事・おやつ提供時間について、さらなる配慮を望む声が1件寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	26	16	7	1
「はい」が53.1%、「どちらともいえない」が32.7%、「いいえ」が14.3%となっている。 自由意見は7件で、戸外活動等のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	37	3	1	9
「はい」が90.2%、「どちらともいえない」が7.3%、「いいえ」が2.4%となっている。 自由意見には延長保育に対する融通性について、さらなる配慮を望む声が1件見られた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	35	11	3	1
「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が22.4%、「いいえ」が6.1%となっている。 自由意見は5件で、保育中の安全管理、設備面、衛生管理や感染症対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	45	4	1	0
「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が8.0%、「いいえ」が2.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	45	3	2	0
「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が6.0%、「いいえ」が4.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	49	1	0	0
「はい」が98.0%、「どちらともいえない」が2.0%となっている。 自由意見には「お花が飾ってあり、明るく見える」の1件が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	40	8	2	0
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が16.0%、「いいえ」が4.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	46	3	1	0
「はい」が92.0%、「どちらともいえない」が6.0%、「いいえ」が2.0%となっている。 自由意見には保育中の安全管理について、さらなる配慮を望む声が1件寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	33	6	1	10
「はい」が82.5%、「どちらともいえない」が15.0%、「いいえ」が2.5%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	47	3	0	0
「はい」が94.0%、「どちらともいえない」が6.0%となっている。 自由意見は2件で、子どもの気持ちを大切にされた対応、保育者の子ども一人ひとりへの関わりや目配りなどについて、さらなる工夫を望む声が見られる。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	36	3	1	10
「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が7.5%、「いいえ」が2.5%となっている。 自由意見は1件で、プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む声があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	39	10	1	0
「はい」が78.0%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が2.0%となっている。 自由意見は2件で、「個人面談やこちらからの質問等は詳しく丁寧に対応してもらえる」のほか、子どもの成長・発達や、保育のねらい・内容等について、園とのさらなる共有を望む声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	37	4	1	8
「はい」が88.1%、「どちらともいえない」が9.5%、「いいえ」が2.4%となっている。 自由意見は「特に不満はない」の1件であった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	25	3	2	20
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が10.0%、「いいえ」が6.7%となっている。 自由意見には「困ることがないので、スタッフ以外への相談の必要がない」の1件が寄せられている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/>非該当
	カテゴリー1の講評	
	法人・園の目指すものが、さまざまな機会と媒体を通じて保護者・職員に発信されている 法人の基本理念「すべての子どもの最善の利益のために」と、心身の調和的発達や基本的な生活習慣の育成など、基本理念に基づく5つの保育方針を定め、保護者には見学・入園時の説明や、年度当初の園便りをはじめとするさまざまな機会・媒体を通じた関連の取組により、共通理解の形成を図っている。また行事の挨拶その他、園長が保護者に直接語りかける場面で、その時々取組内容に関連づけ、法人・園の目指すものを発信している。職員には入職時の法人による研修や常勤者が年2回行う自己評価などにより、理解・実践と再確認を促している。 「誉める保育」の実践をはじめ、現場に求める日頃の心得を折に触れて啓発している 年度当初の会議では、参加の各人が上記の法人の理念等を確認するほか、日常の所作や職員相互及び子どもに対する敬意・思いやり、就業規則等の厳守や専門職者としての自覚など、現場に求める規律・規範を園長が発信している。その後も折々の会議で、基軸とする「誉める保育」の実践や、そのために求められる子どもへの深いまなざしや肯定的な関わりなどについて、現場に繰り返し啓発している。あるべき姿を守り、日々実践し続けるとともに、そのつど内省し、成果や成功も含めて実感し、次なる成長につなげることを、職員に望まれる姿勢と考えている。 組織としての意思決定の手順と、必要な情報を関係者に周知させる仕組みを整えている 各階で原則毎週行うフロア会議で、保育や子どもに関する直近の課題を集約し、それらを含め、園長・主任をはじめとする経営層により随時行うリーダー会議で園運営全般の状況を共有したうえで、毎月の常勤者による職員会議で組織の総意をまとめる流れを、意思決定の基本的な手順としている。また職員会議では園長から上記の各種啓発を含む現場への伝達事項が、それらを記載した書面とともに発信されている。決定事項等は議事録の確認等によって欠席者を含む組織全体に周知され、保護者には主にアプリ配信により、各種の重要な連絡事項が伝えられている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>園の運営や重点課題に関する各計画の作成と、園の経営状況の管理がなされている</p> <p>園長作成の一昨年度から5か年の中・長期計画に、事業環境の状況や収集すべき関連の情報、「利用者(園児・保護者)・職員に「選ばれる園」になる」をはじめとする「目指すべき目標」と、取り組むべき重点課題や各分野の年度ごとの実施項目を一覧化している。また年度の事業計画には保育の充実のほか、中・長期計画でも言及される人材の確保・育成、地域との連携・保護者支援などについて、取組・方針を列挙している。園の収支・稼働率などの経営状況の管理や予算の作成は園長が担い、毎月の法人内の園長会で法人や系列各園との共有を行っている。</p> <p>保育・行事等の日常業務について、計画の作成や保護者・職員の意向把握がなされている</p> <p>保育や行事については、年間の予定と具体的な取組内容・目標等を定めた各計画がそれぞれ作成され、計画や取組の期間などに応じた進捗確認がなされている。またこれらの立案にも参考とされる保護者の意向を、個別の面談や毎日の利用を通じたコミュニケーションのほか、保護者会での意見交換や、行事後に連絡通信アプリのアンケート機能を用いて行う感想収集などから把握している。その他にも防災・保健・食事など、日常業務の各分野で、同様に年間及び短期の各計画が作成・実行され、担当職員による反省と、以降の計画立案への反映がなされている。</p> <p>職員からの現場の声や事業環境の動向など、課題把握の参考とすべき情報を収集している</p> <p>職員の意向は上記のほか、前述の各会議や個別の面談等を通じて把握し、園運営の各場面で参考としている。市内の施設経営や保育・教育等の状況、関連する国・自治体の政策・制度の動向等は、小平市の私立保育所園長会や法人内の全体・ブロック別の各系列園園長会、行政・法人の各種発信や、必要に応じた市担当課への照会などを通じて把握している。また入園前見学で来園する未就園世帯との会話などから、地域内の子育てや教育などの状況・傾向を把握している。これらの情報は上記の保護者・職員の意向とともに、前述の各計画の立案の参考とされている。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-3の講評		
法人の保育者に望まれる規範・倫理が、さまざまな機会に職員に啓発されている 職員には入職時の法人による研修を通じ、身だしなみ・マナーや守秘義務、「報・連・相」などの社会人・職業人としての各種服務規律、「誉める」「笑顔」「美しい仕草」などの法人の保育者に求められる種々の規範の理解と実践が促されている。またその後の年2回の自己評価においても、法人策定の「振り返りシート」をもとに、これらを含む自身の日頃の実践や心がけに関する内省を行っている。毎月の会議でも園長が関連の啓発を行い、子どもを認め受けとめ、誉めることでそれを伝え、一人ひとりの子どもの自己肯定感を高めることを求めている。		
園内・家庭での虐待等の防止や、保護者の苦情・要望等への対応の体制を整えている 上記に加え、いわゆる不適切保育を防ぐ取組として、法人共通のチェックシートを用いた自己点検が全職員に課されている。また家庭での虐待等には市子ども家庭支援センターを通報・連携先として、支援を要する子ども・家庭の在籍時には随時情報を共有して対応にあたるほか、今年度改訂された法人の関連の手引書を常備している。保護者の苦情・相談には対応の窓口を整備し、掲示や入園時の説明によって保護者に周知を図るほか、玄関に設置の「ご意見箱」や日々の会話・アプリ連絡帳等でも意向を把握し、案件に応じ誠実な対応に努めている		
地域とともに歩む園であるべく、情報・機能の提供や関係者との連携に取り組んでいる 実習生・ボランティア等の受け入れのための手引書を常備し、運動会で体育館を借用する近隣の小学校からの教員実習を受け入れている。またホームページや市の各種媒体を通じて園の情報を発信するなど、地域に開かれた園であるべく努めている。地域への施設機能の還元として、見学で来園する未就園世帯の育児相談に応じており、今後は園庭開放などの実施可能な他の取組も検討する意向である。市の私立園園長会や要保護児童対策地域協議会、地域の保育所・幼稚園・小学校の連絡会を通じ、保育・教育等の関係者間の連携にも加わっている。		

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>日常の保健面の各種リスクへの対策や、保育中の事故の予防・再発防止に努めている</p> <p>各階の保育室に熱中症やアレルギーショック発生時の対応、感染症の一覧やけいれん発生時の対応チェックリストを掲示するほか、会議での応急救護やけいれん・アレルギー対応に関する手順の確認、子どもの睡眠時の状態確認や夏季の戸外活動等の自粛など、SIDS・熱中症をはじめとする日常の保健面の各種リスクへの対策を行っている。また関係者の検温・マスク着用や各所の消毒・換気など、感染症のまん延防止にも努めるほか、子どものケガ等の発生後の原因・対策検討と現場への注意喚起など、保育中の事故の予防・再発防止にも取り組んでいる。</p> <p>事故防止に向けた現場の啓発や、災害・侵入への対策にも取り組んでいる</p> <p>上記のケガ等の事故は、毎月のクラス別の集計・分類と看護師による会議での傾向等の報告も行われ、重要な事例は会議でより詳細に対策を検討している。ヒヤリハットも同様に把握・検討と共有を図るほか、法人が随時発信する系列園の事例も回覧等により組織内で共有を図り、注意喚起に活かしている。毎月の避難訓練実施やBCP策定等の防災対策にも努め、訓練の実効性向上を課題として、毎月の会議に検証の場を設けている。不審者対策訓練は年度内に実施を予定しており、戸外での遭遇への対策にも今後取り組むことが期待される。</p> <p>各種情報の取り扱いと漏洩の防止について、関連の規程等や仕組み・環境を整備している</p> <p>個人情報及び文書の管理・利用、開示・訂正等の請求への対応などについて、法人共通の規程が定められており、保護者には入園の際に各種利用目的に関する説明と同意確認を行っている。職員には入職時に各種情報の取り扱いと機密保持の徹底に関する啓発を行っており、今年度は関連のマニュアルの改訂がなされている。また実習生等には活動開始時に守秘義務について説明を行うこととなっている。重要書類の施錠管理、PC・タブレット使用時のパスワード・IDによるログイン制限など、設備・環境面でも情報漏洩の防止に配慮している。</p>		

5			カテゴリー5
5			職員と組織の能力向上
			サブカテゴリー1(5-1)
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	11/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇●)
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	評点(〇〇〇)
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている <input type="radio"/>非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる <input type="radio"/>非該当
カテゴリ-5の講評	
<p>必要な人材の確保と、園内の状況や人材育成等を考慮した適切な人事の実施に努めている</p> <p>法人内の広報・採用委員会が、系列各園の職員の採用戦略立案等を行い、系列各園と連携した各養成校への働きかけや関連のイベントへの出展、法人サイトやSNSでの情報発信のほか、多様なルート・媒体を通じて人材確保に努めている。また異動・配置等の人事においては、保育・運営の安定継続のほか、各人の意向も踏まえた次期リーダー・経営層の育成等の観点を加味して検討・決定している。今年度の配置には組織の底上げを意識し、育ちつつある若手職員が現場の中核を担い、先輩職員や開園当時から経験者がこれを支援する体制としている。</p> <p>職員のキャリア形成の道筋や、自己評価と面談を軸とした個別育成の仕組みを整えている</p> <p>今年度、職員の入職後のキャリア形成の道筋を図示した「職員のキャリアプランについて」が作成され、在籍者及び今後の入職者へのその周知や、これに関連するOn/OffJT等の必要な研鑽等を示す人材育成計画の整備などが課題と思われる。職員の個別育成の仕組みとして、法人共通の「振り返りシート」により、各職員が自己評価と年度の振り返り、次年度の目標や受講すべき研修の設定を行い、これをもとに園長との面談を行う、簡易的な目標管理を実施している。また同シートと同内容の項目による評価制度が別途設けられ、人事面の参考とされている。</p> <p>内外での学びの充実による職員の能力向上や、働く環境の諸整備に取り組んでいる</p> <p>都キャリアアップ研修などの外部の研修のほか、保育の基軸とする「誉める保育」に関する系列園と合同の実務的な研鑽や、法人アドバイザーによる表現活動等に関する指導、外部機関を活用したチーム力向上やリーダー層育成など、法人内に多様な研修が整備され、園内でも日々の会議での課題検討に加え、園長が現場を視察して称賛や課題を伝える取組などを設けている。また一定の枠内で各職員が必要な保育材料等を購入できる「お小遣い制」など、組織の活力促進にも努め、職員自己評価で意見の見られた労働環境向上にも、さらなる対応を図る意向である。</p>	

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>一昨年度からの新型コロナウイルス感染拡大等の影響により、当園でも人と人との接触を制限せざるを得ない状況が生じた。昨年度もそれは続き、日常の保護者との交流にもさまざまな制約を余儀なくされた。その中でも毎日の子どもの様子や園の保育活動をより具体的に伝えるため、種々の工夫に注力した。</p> <p>園やクラス・園児たちの近況を伝える毎月の便りに加え、日々の保育内容や子どもの姿を、写真を活用した「ドキュメンテーション」や、随時配信の動画、園内に設置した端末でのスライドショー上映など、視覚的な各種媒体も活用して保護者に発信した。</p> <p>また前年度の毎月の誕生会の観覧に代え、保護者が都合に応じて日程を選択できる形で「定期公開日」を設定し、感染状況が鎮静化傾向に転じた10月以降に、月2~3回程度、日常の保育の様子を観ることができるようにした。</p> <p>保護者参加の行事についても、感染リスクを抑えつつ極力保護者の観覧を継続すべく努め、前年度は幼児のみの開催とした「もりんびっく(運動会)」では、昨年度は乳児向けにも園内で実施し、2部の入れ替え制として、親子で一緒に参加できるプログラムを設けて行った。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>上記に加え、「フェスティバル(発表会)」では子どもたちの各演目の発表に加え、本番では緊張などのため日頃の通りに行えない子どもたちにも配慮し、当日に向けて取り組む過程を収録した動画の上映も行った。</p> <p>保護者会の中止など、コロナ禍の影響による当初の計画の変更はあったものの、一連の取組を通じ、保護者に子どもたちの成長や園の保育の種々の取組などを伝えるという所期の目的においては、経営層は一定の成果を得たと考えている。</p> <p>子どもたちが一日の大半を過ごす園での生活を、より具体的に保護者に伝える営みは、保護者との信頼関係の維持と向上においてきわめて重要であり、取組は今年度も継続している。また社会の感染状況やコロナ禍に対する認識の変化も踏まえ、定期公開日は日程をあらかじめ設定せず、保護者の希望する日に参観可能とする「公開保育」に改め、1日あたりの定員を設けたうえで、内外の感染状況に応じて受け入れを開始している。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度の事業計画では、開園2年度めの歴史が浅く、現場を支える職員も若手が中心である園の状況を踏まえ、物的環境面では教具・教材等の充実と施設内外の清潔感ある環境の維持、また人的面では法人の保育への共通理解を深めるための振り返りや話し合いの時間の確保、内外の研鑽の機会や同市内の系列園との連携を活用した組織的な専門性向上に取り組むこととした。またこれらを通じ、日常的な感染症対策と並行して、保育や行事等の質的向上を図ることも目標とした。

目標の設定と
取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

物的環境の充実については年間を通じて注力し、教具・教材をはじめとする物品の購入に加え、必要に応じた手作り玩具等の作製も行ったほか、日々の清掃・消毒をはじめ、衛生面でも適切な状態の維持に努めた。
また都キャリアアップ研修の履修のほか、同市内の系列園と連携した見学交流や、法人内の「『誉める保育』」への参加など、職員の専門性向上の機会も随時設けた。誉める保育研修は参加予定の回のほとんどが中止となり、一部職員のみ参加にとどまったが、これを含め系列の他園での研修等に職員を派遣する際は、対象の職員に先輩・上席の職員が同行し、随時助言や指導を行う形として、より効果的な学びの獲得を図った。これらの成果は報告書等の供覧や会議での報告、日々の現場での実践を通じ、組織への還元を促している。
園内においても、各階の「フロア会議」や毎月設ける職員会議などの場で、子どもや保育に関する話し合いを随時行い、認識の共有を図るとともに、園長からも啓発に努め、法人の系列園の保育者としての理解がより深まるようにした。
今年度も引き続き一連の取組は事業計画中の「重点事業」に挙げ、さらなる質の充実に取り組んでいる。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>法人や園の各種媒体を通じて、系列園共通の保育や施設の情報を発信している</p> <p>法人のホームページでは、系列園共通の保育理念「子どもの最善の利益のために」の実現に向け、実践する「誉める保育」「異年齢の関わりを大切に」「子どもの主体性を尊重する」を紹介するほか、これらを含む法人が目指す保育を解説した「コンセプトブック」のダウンロードが可能となっている。本園を紹介するページでは、施設の概要や一日の流れ、年間の行事予定などの情報を掲載している。見学者には、ホームページの掲載事項に加え、延長保育や持ち物表などの情報と園舎内外や活動の写真を掲載した冊子を用意している。</p> <p>公式サイトや冊子などの市の各種媒体からも、園の情報が得られるようになっている</p> <p>市の公式サイトでは、市内にある保育所の所在地や連絡先、定員等の情報が一覧となって掲載されている。市の関連の窓口や施設のほか、市内の各保育施設で配布される「保育園等入園のしおり」や、ホームページ上で閲覧が可能となっている電子書籍「子育てガイド」には、所在地や連絡先、定員、開園時間、保育時間などの施設の情報が掲載されるなど、市の各種媒体から、本園の情報が得られるようになっている。</p> <p>コロナ感染症の状況等に応じた方法で見学を行い、保育の特色等が伝わるようにしている</p> <p>園見学は、見学会の開催のほか、1回あたり2家庭を限度に受け入れるなど、時期やコロナ等の状況に応じた方法で行い、申し込みは電話で受け付けている。見学会では、プレゼンテーションソフトを活用しながら、園利用にあたっての約束事等の入園後の様子がわかるよう説明するほか、園内を案内する際は、子どもの活動や食事の様子がみられる午前中の時間帯で行い、園の保育の特色が見学者に伝わるようにしている。質疑応答を行うほか、希望があれば育児の相談に応じるなど、入園や育児に関する保護者の不安の解消が図られるよう心がけている。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
2 サービスの開始・終了時の対応			
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評			
入園前の説明会で利用開始にあたっての説明を行い、各種同意は書面で確認している 年度当初に入園が内定した世帯には、3月に説明会を開催し、利用開始にあたっての説明を行っている。説明会前に送付する「入園のしおり」に沿って、施設概要、保育の基本理念や運営方針、個人情報の取り扱い等の重要事項のほか、登園や保健等の園の利用にあたっての園からの依頼事項、SIDSと園の対策、持ち物などに関する説明を園長からなされている。質疑応答によって不明点の解消に努め、個人情報の取り扱いや重要事項に対する説明、個人撮影の写真・動画に対するプライバシーへの配慮などに関する同意確認は、各書面にて行っている。			
入園後の支援に向け、入園前の面談で保護者や子どもの状況を確認している 入園説明会後には、個別の面談の場を設け、担当の職員によって確認した保護者や子どもの状況を、入園後の支援に活かしている。「個人調査票」「食事状況確認書」などの保護者から提出される書類を参考にしながら、保護者の就労状況のほか、入園前の子どもの生活や食事、健康や発達状況などを確認している。食事や健康面での配慮事項がある場合は、園長や看護師・栄養士が必要に応じて面談に同席して、個別の支援に活かせるよう、詳細事項を確認している。得られた情報は一覧化して組織内で共有し、共通認識のもとで支援ができるようにしている。			
利用開始直後には親子の不安に配慮し、利用終了後の関係継続に努めている 勤務の復帰予定等の保護者の状況に応じて設けた期間で、保育時間を徐々に延ばしていく「慣らし保育」を行っている。期間中の子どもの様子に応じて日程を調整するほか、家庭で使用するタオル等の愛玩品の携行を受け入れるなど、柔軟な対応を行って、入園当初の子どもの不安やストレス等への配慮に努めている。保護者にも安心してもらえるよう、子どもの様子を丁寧に伝えるようにしている。行事への卒園児の招待等をコロナ禍以前には行っていたが、コロナ禍以降は年賀状の送付のほか、卒園アルバムを受け取りに来た際に近況を確認している。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3の講評		
子どもや家庭の情報の管理や、子どもの発達経過等の記録の仕組みを整えている 子どもや家庭の情報は「個人調査票」として保管されており、入園後の発達経過記録は児童票として0・1歳児は毎月2歳児は2か月ごと、幼児は3か月ごとに健康・情緒面での発達の経過を記録している。また各家庭との面談を年1回の頻度で行うほか、希望に応じていつでも応じられるようにしている。面談では生活・遊び・人間関係・食事などを中心に園での姿を伝えるとともに、事前にアンケートで把握した保護者からの質問事項についての回答も行っている。面談内容は記録として綴られており、面談終了後の職員会議にて内容を共有している。		
全体的な計画をもとに年・月・週の指導計画を策定し、日々の保育を実践している 全体的な計画を踏まえ、年・月・週の計画を策定している。評価・反省は計画類に応じた頻度で行われ、活動内容や環境・配慮等を検討して次の計画へと活かしている。毎年、法人全体での指導計画の見直しが行われ、これらをもとに自園に合った内容の立案を行っている。また0～2歳児は個別計画を策定し、一人ひとりの育ちに合わせた丁寧な支援に反映させている。保育方針や月ごとの保育のねらいは、保護者会や毎月のクラス便りにて保護者に発信し、日々の保護者との会話の中でも子どもへの支援について伝えるなど、共通理解の形成を図っている。		
個別的な配慮が必要な子どもへの支援や、職員間の情報共有の仕組みを整えている 個別的な配慮が必要な子どもには、計画の個別配慮欄に記載をし、子どもの育ちに寄り添いながら発達を見守っている。各フロア会議では各計画の評価・反省及び次に向けての内容の検討を行うとともに、個別の配慮を行う子どもに対するさまざまな視点を共有し、子どもの特性を理解して継続的な育ちを支援している。また年3～4回の頻度で巡回指導員が来園する仕組みを整え、個別的配慮が必要な子どもの育ちを確認し、必要な支援についての助言を受けている。「朝会」では早出の職員を中心に、登園時の保護者からの伝達事項や子どもの様子を共有している。		

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報やプライバシーの保護、子どもの羞恥心等への配慮に取り組んでいる</p> <p>入園時には書面をもとに個人情報の取り扱いについて保護者への説明と同意確認を行い、外部との情報の授受は法令上等の例外を除き、個別に意思確認を行うこととしている。子どもの羞恥心への配慮として、乳児のおむつ替えはトイレ内や他者の視線の届かない場所で行うほか、着替え時には裸にならないような手順を知らせ、身体測定や健診でも別室でカーテンによる目隠しをしている。戸外でのトイレ使用時には大人が同行し、安全面にも配慮している。4・5歳児には絵本を用いてプライベートゾーンに関する話をし、子どもが自ら意識できるようにしている。</p> <p>人権への配慮事項をマニュアルに示し、振り返りや研鑽を通じて、徹底を促している</p> <p>法人策定の「職員の心得マニュアル」に、人権に配慮した保育や子どもの人権への配慮として、生活の各場面における職員の適切または不適切な言動等を示している。また「虐待防止マニュアル」には、不適切な保育の事例を複数掲げたチェックリストが付属され、園配属後の新入職員にマニュアルの確認を促すとともに、各職員がチェックリストによる振り返りを月1回行っている。月1回の職員会議では、折に触れて、肯定的な表現の確認等を行うほか、誉める保育の園内研修を通じて、子どもの人権に配慮した保育の実践での徹底を促している。</p> <p>虐待防止の手引書が整備され、事例共有や研鑽等を通じて、理解が深まるようにしている</p> <p>上述の「虐待防止マニュアル」には、虐待の定義や園の役割などのほか、虐待の早期発見から通告の手順を示したフローなどが示され、新入職員は園配属時に手順書の確認を促すとともに、重要事項等の入園の説明時に、新入職員を立ち合わせることで、虐待防止等に対する園の役割を認識させる機会としている。また職員会議では、他園の虐待事例を共有して、注意を喚起するほか、都のキャリアアップ研修や法人研修への職員の参加を通じて理解を深めるとともに、報告書等の供覧によって、組織内で知見を共有できるようにしている。</p>			

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー6の講評			
<p>系列園共通の業務全般の手引書が整備され、常時確認・活用ができるようにしている</p> <p>勤務の心得や、子どもの人権への配慮等の保育の基本を「職員の心得マニュアル」に示すほか、保育の実践や園外保育、感染症や事故・危機管理等の対応、健康や衛生に関わる業務全般に関わる法人共通の手引書が整備されている。これら手引書類は、事務室に設置して職員の閲覧に供すほか、かかりやすい感染症の一覧、熱中症やアナフィラキシーショックの対応手順、けいれん時のチェック表などの緊急時の対応手順を、園内の要所に掲示して、常時確認・活用できるようにしている。</p> <p>法人・園の研修や園長の視察等を通じて、手引書類で定められた事項の徹底を促している</p> <p>入職後の新入職員には、法人共通の各種業務の手順の確認を促すとともに、入園説明会に同席させ、関する保護者向けの説明を通じて、個人情報取り扱いや虐待防止などに関する意識が高められるようにしている。毎月の職員会議では、看護師から折々の季節に応じた諸注意を、職員に伝えるとともに、熱性けいれんや嘔吐処理等の保健衛生面に関わる手順の確認を行っている。法人が目指す保育の実践面は、法人や園内の研修、系列園の見学を通じて学ぶほか、園長が行う現場視察によって、人的・物的環境面、保育内容、各種業務手順などの点検を行っている。</p> <p>保護者の意向や職員のアイデアを、保育や園運営の見直しに活かす仕組みを整えている</p> <p>行事後や年度末に行うアンケートを通じて、保護者全体の意向を把握し、保育や園運営等の見直しに活かしている。コロナ等の事情で想定していた姿にはならなかったが、戸外活動の充実を望む保護者の声をもとに、積極的な戸外活動に向け、10月に「お散歩月間」を設け、バギーの保管場所を取り出しやすい位置に変更している。職員の系列園見学での学びを通じて、保育の見直しや室内装飾に活かすほか、今年度は職員一人当たり月に1500円の「お小遣い制度」を設け、職員のアイデアのもとで、玩具や室内装飾用の物品を購入できるようにしている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの自発性の伸長や発達相応の遊びと自立を促す環境づくりが行われている</p> <p>0・1歳児、2歳以上児は異年齢で過ごしており、各室には子どもの興味や発達に即した玩具や教材を整えるほか、手に取りやすい位置への設置や玩具の置き場所の写真による明示などの工夫もなされている。2歳以上児の部屋には身体を動かして音楽遊びを楽しめる空間もあり、子どもが小集団で音を楽しんだり、ごっこ遊びの展開からなりきり遊びを楽しむなどの姿が見られている。0・1歳児の部屋には、歩行の確立が未熟な子どもの安全面への配慮や、全身を活用して過ごせるコーナーの設置を行うなど、子どもの発達に合わせた環境設定を行っている。</p> <p>異年齢での生活・遊びを経験することで、思いやりや優しさが身についている</p> <p>2歳以上児の子どもは同じフロアで過ごし、生活・遊びの面でのさまざまな刺激を受ける経験を通して、年齢相互の育ちが培われている。登園後の身支度で戸惑う子どもの手助けをしたり、食事をともにすることで食欲が増進されたりするほか、食事のマナーが自然と身につく姿なども見られている。また難易度の高い玩具に挑戦しようとする年下の子どもに、年上の子どもが手順を教えたりする中で、年上児への憧れの気持ちが育まれ、年下児への思いやりの所作や言葉かけが身につくなど、生活の中での積み重ねが人に対する優しさや興味を養っている。</p> <p>子ども同士のトラブルには双方の気持ちを受容して対応し、環境面での検討も行っている</p> <p>発達上で生じるかみつきや引っかきなどの子ども間のトラブルでは、子どもを見守る保育者の立ち位置を検討したり、玩具の位置や数など、環境面でも検討をして未然に防ぐようしている。幼児のトラブルは双方の気持ちを受けとめ、トラブル前後の経緯も含めた流れを確認している。異年齢で過ごす幼児のフロアでは職員間の連携を図り、場に居合わせない職員の意見も聴き取ることで、トラブル原因の把握に努めている。小学校教育への円滑な接続に向けて、就学に向けた生活面での必要な所作を職員間で共有し、子どもたちの援助につなげている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時の子どもの状態確認や、一日の活動内容の保護者への伝達の仕組みを整えている</p> <p>登園時は、0～2歳児は保育者が個別の連絡帳に記載された家庭での様子を確認するとともに、口頭でも様子を聴き取り、0・1歳児は検温をして保護者と保育者双方で確認をしている。登園時の視診では顔色や機嫌を確認し、おむつ替えの際にも全身の視診を行って健康状態を確認している。確認した情報や保護者からの伝達内容は「生活管理表」や「受け入れ表」に記載し、職員間で共有をしている。一日の様子は乳児は連絡帳に個別の様子を記載し、2歳以上児は全体の活動内容として、写真と文章で作成をした内容を専用アプリで配信している。</p> <p>身辺の自立の取組は、一人ひとりの発達の把握や意欲を尊重して行われている</p> <p>着替え・排せつの自立は子どもが自力行おうとする意欲を尊重して、保育者が誘導し過ぎないことを方針としている。排せつは便器への興味が見られた子どもが便座に座り慣れることから始め、立位が安定し身体の器官の発達が見られた頃には、子どもの意思を尊重して声かけを行いながら、無理強いせず子どものタイミングで支援するようにしている。着替えは子ども自身の気づきを大切に考え、汚れたことに気づいたり、自ら着替えようとする姿を尊重している。着替えや排せつでも集団では促さず、個々のリズムを把握して声をかけるようにしている。</p> <p>睡眠の支援は一人ひとりのリズムや体調に合わせ、安全にも配慮して行っている</p> <p>0・1歳児の午睡は保育者が一人ひとりのリズムを把握し、子どもの状況に応じた時間を取っており、月齢や体調に応じて午前寝や夕方寝をする子どもの欲求にも応えられるよう環境を整えている。SIDS対策として5分ごとに呼吸・状態の確認を行い、うつ伏せの子どもは仰向けに身体を起こしている。また顔色が随時確認できるよう、室内の採光にも気を配っている。2歳以上児は部屋の空いたスペースを活用することで、子どもの意思で眠らないこともあり、促すタイミングや眠い欲求を早めに把握することで、安心して午睡が取れるような工夫に努めている。</p>		

3 評価項目3		日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目				
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている				○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している				○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している				○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている				○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている				○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している				○非該当
評価項目3の講評					
<p>子どもが自発的に遊びを選択し、存分に取り組める環境と時間の工夫がなされている</p> <p>昼食前・午後のおやつ後の活動は、子どもが自由に遊びを選択して好きな遊びにじっくりと集中して取り組めるようにしている。天気の良い日は園庭へも自由に入出入りができるようにしており、遊びの区切りは子ども自身でつけられるような環境と時間の配慮を行っている。構成遊びや制作などは途中保管ができる場所を設け、一つの遊びを時間をかけて取り組むことで、達成感を感じることもできるような工夫を行っている。また幼児室の隣には支援室があり、運動スペースのほか、楽器やリズムなどの音楽を楽しむなどの表現スペースとして活用している。</p> <p>応答的な対話を重ね、言葉の習得や自己決定をしていけるような支援が行われている</p> <p>乳児から子どもの行動や思いを保育者が代弁する役割を担い、安心して思いを伝え、言葉を習得していけるよう、応答的な支援に努めるとともに、子どもとの目合わせを行い、言葉にならない思いを受けとめる保育を目指している。2歳以上児は子どもとの対話の中で、子どもが主体的に思案して行動に移せるよう、いくつかの選択肢をアドバイスとして子どもに伝えながら、子どもが自己決定をしていけるような支援を行っている。また生活の中で職員が手本となるような言葉を使い、子どもに対して否定的な言葉をかけずに肯定をしていく対話を大切に考えている。</p> <p>戸外活動では園庭や周辺的环境を活かし、子どもが季節を感じられるよう配慮している</p> <p>園庭では大型遊具や築山・砂場などで身体を存分に使って過ごせるほか、季節ごとに花々が咲き、子どもたちが摘んで室内に飾ったり、旬の野菜を栽培してクッキングに活用している。また園庭以外にも、近隣の公園や園周辺への散歩など、季節を感じる活動や取組が行われている。夏季は園庭で水遊びを行い、夏ならではの遊びを楽しむとともに、感触遊びや色水遊びなどの五感を活用した遊びにも取り組んでいる。5歳児は共通の話題を通して意見を言ったり聞いたりできる「お集まりの会」が設けられ、仲間と話をする楽しさや決まり事を知る場ともなっている。</p>					

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>日頃の保育のつながりを披露する「もりんびっく(運動会)」が行われている</p> <p>年間行事は保護者参加型や文化伝承を学ぶ催しなど、いずれも子どもが主体となり、日頃の保育のつながりから行事に展開できるように取り組まれている。「もりんびっく(運動会)」ではテーマとして「虫」を掲げ、各種目とつなげた内容とすることで、子どものワクワクする気持ちを高め、意欲的に参加する姿が見られている。事前に種目内容の写真を室内に掲示することで子どもたちの期待感を高め、当日を迎えられるようにするほか、当日までの遊びの様子はお便りで配信を行い、保護者も期待感を持ち、親子で行事を楽しめるような工夫もなされている。</p> <p>表現遊びを積み重ね、仲間とともに一つのことに取り組む楽しさや達成感を感じている</p> <p>法人内のアドバイザーとともに行われる音楽・言語・制作等の表現遊びでは、リズムに合わせて身体で表現する楽しさを知り、子どもたちが題材を選択したオペレッタ(音楽劇遊び)を仲間と楽しみ、2歳以上児はこれらの姿を「フェスティバル」で披露している。フェスティバルは仲間とともに一つのことに取り組む楽しさや達成感を味わうことをねらいとし、事前に保育室内に表現スペースを作り、遊びの延長線としても取り組めるようにしている。幕間には保育中の遊びの姿や子どもたちが相談し合いながら作り上げる様子を動画で上映し、保護者に伝えている。</p> <p>行事のねらいや内容を保護者に伝え、理解や協力を得られるようにしている</p> <p>行事は年度当初に年間の予定表を保護者に発信するほか、園便り等でも内容やねらいについて伝え、行事への取組の過程など、日々の様子も保護者と共有していくことで、より理解と協力を深めてもらえるようにしている。イベントごとに動画配信を実施し、家庭でも楽しめるよう、また他学年の姿も動画で見られることで次年度への期待を持ってもらえるよう配慮をしている。今後は動画配信をより活性化させたり、配信の内容も保護者のニーズや意向を把握したうえで充実を図るなど、保護者への発信を質量ともに高めていきたいと考えている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもの心身の安定や主体的な生活・行動に配慮した環境設定と援助に努めている</p> <p>0・1歳児の部屋には天蓋が吊られ、天井の高さを低くすることで、子どもが落ち着いた空間として安心して過ごすことができるようにしている。各保育室にはくつろぎスペースを設け、身体を横にしてゆったりとくつろげる空間とするほか、長時間を過ごす子どもたちの活動の動と静のバランスを図り、健康的に過ごせるようにしている。一日の生活は子どもが主体的に選択できる時間を主として、子ども自身が自分のリズムを知り、自発的に行動できるよう配慮し、エントランスや他の保育室に出かけたい場合も、それを尊重できるよう体制を整えている。</p> <p>異年齢で過ごす子どもたちへの環境の工夫や、家庭的な雰囲気づくりにも配慮している</p> <p>朝夕は0・1歳児室での合同保育となり、異年齢で関わりながら過ごしている。玩具・教材等は延長保育ならではのものや、各年齢児が共通して楽しめるもの用意し、年齢差のある子どもたちが楽しく安全に過ごすことができるよう配慮している。また保育者とのふれ合い遊びやスキンシップなどにより、子どもが寂しさを感じずに過ごせるような保育の実施に努めている。今年度から長時間保育の中で夕食の必要な子どもが増えていることを踏まえ、より家庭的な雰囲気づくりに配慮し、一人ひとりや小集団での配慮をさらに検討していく必要があると考えている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>毎日の食事は、子どものお腹の空くタイミングに合わせ、主体性を尊重して提供している</p> <p>昼食は遊びを終えた子どもが席に着き、順番に「お名前呼び」をして配膳が行われている。2歳以上児の部屋では、決められた食事のテーブルにトレーを運んで食事を開始し、0・1歳児はトレーは使用せずに皿・茶碗と一つずつ運んでおり、時折こぼしてしまう姿も見られるが、自分で運びたいという達成感を大切にしたいと考えている。無理なく給食が食べられるよう、配膳時に子どもに食べられる量を確認して盛り、食べ切った達成感が得られるようにしている。午前・午後のおやつについても一斉に開始はせず、子どものタイミングを見守っている。</p> <p>おいしく楽しく食べられる献立の立案や、アレルギー食の安全な提供に努めている</p> <p>献立は和食中心の旬の食材を活用した薄味調理となっている。食育メニューとして毎月世界の献立を提供して、事前に国ごとの紹介や食事内容をクイズ形式にして、当日を楽しみにできるような工夫を行うほか、誕生児には保育者と一緒にクッキーを購入するために出かけるなどの丁寧な取組も行われている。食物アレルギーを持つ子どもは入園時に家庭の面談を行い、医師の指示書をもとに食材を把握して安全な提供に努め、子どもの食べたいタイミングで配膳を行い、色違いの専用トレーに食札をつけて保育者が配膳を行うとともに、近くで見守るようにしている。</p> <p>制約の中でも食を通して子どもが四季を感じ、食の楽しさを感じられるよう配慮している</p> <p>園庭の畑での栽培活動では、子どもたちが苗から植えて水やりを行いながら生長の喜びを感じ、花から実が育つ過程を体験している。収穫後には子どもが調理活動を行い、食事は食べるだけでなく作ることが楽しさやおいしさにつながる実感を育んでいる。コロナ禍発生後、職員は子どもと食事をともにすることを控えており、おいしさの共有がしづらくなっていることを課題と考えており、現状は安全に留意しながら、距離を置いた場所で食事を摂りながらも、子どもとの目合わせや笑顔を絶やさずにし、食事をともにしているという雰囲気づくりに努めている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>指導や日々の啓発を通じて、病気予防やケガ防止を子どもが意識できるようにしている</p> <p>戸外活動後や給食前等の活動の節目では、子どもたちの手洗いを職員が寄り添って援助するほか、手が汚れたらどうするかの問いかけを子どもにするなど、年齢に応じた方法で職員が手洗いを促している。また幼児向けには、手洗いのほか、食後の口濯ぎやうがい、プライベートゾーンなどに関する指導を看護師が行い、子どもたちの病気の予防や自身を守る意識を高めている。朝の会、活動や散歩の前には、安全に遊ぶための約束事や交通マナーを職員が子どもに伝える等の啓発を通じて、子ども自身がケガ防止を意識できるようにしている。</p> <p>子どもの健康の維持管理に、職員と保護者・嘱託医等が連携しながら行っている</p> <p>登園時の職員による健康観察と保護者からの口頭・通信アプリによる伝達を通じて、子どもの健康状態を確認し、配慮事項があれば、その日の援助に活かしており、看護師が各クラスを午前・午後に巡回し、子どもの様子を確認している。健康や発達面等に関する配慮事項は、主に入園前の面談で把握し、かかりつけの医療機関からの助言等を個別の支援に活かすこととしている。嘱託医とは、子どもの健康やケガ、発達面について相談できるほか、検診によって子どもの健康状態を定期的に確認し、所見があれば、保護者に医療機関の受診を依頼している。</p> <p>保護者と連携して子どもの健康を支援できるよう、保健に関わる情報の提供に努めている</p> <p>入園時には、体調面による登園や感染症の罹患に伴う対応、与薬やSIDSとの園の対策などの説明によって園利用にあたっての保健面に関する共通認識の形成に努めている。コロナ感染症に関する都や市の書面を掲示するほか、感染症が園内で発生した場合は園内掲示やアプリ配信によって保護者の注意を喚起している。便の形状や色見本の掲示のほか、保健便りを通じて季節に応じた健康維持のための情報を発信するなど、保護者ととも子ども健康を支えられるよう、各種の保健に関わる情報の提供に努めている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者とのコミュニケーションを図り、個別の事情に応じた支援に努めている</p> <p>コロナ禍の推移次第で、玄関またはクラス前までの保護者の入室を制限し、保護者とのコミュニケーションを積極的に図るのが困難な状況の中、登降園の時間帯に園長がエントランスに立ち、保護者とのコミュニケーションを図ることで、話しやすい雰囲気づくりに努めている。希望性の個人面談の機会と併せ、育児や個別の事情等の折々の保護者から相談事に対して助言し、個別の支援につなげられるようにしている。また保護者の就労事情等による登園時間の調整のほか、急な延長や土曜の保育の利用に柔軟な対応を心がけている。</p> <p>保護者同士の交流機会の充実を図り、養育力向上の支援にも努めている</p> <p>開園後、初めての年齢別の保護者会を今年度開催し、保護者同士の交流を図る中で、保護者が抱える育児の悩みに対して、他保護者の経験談を寄せてもらうほか、担当者から子どもの成長の目安や発達の特徴の説明がなされている。開催日を決めて行っていた公開保育を、今年度は保護者の都合に応じて受け付け、参加を通じて保育者と子どもの関わりを見てもらっている。また今年度は法人の子育てアドバイザーによる育児講座も行うなど、交流の機会を通じて保護者の養育力向上の支援となるようにしている。</p> <p>園の取組等への保護者の理解が深まるよう取り組んでいる</p> <p>今年度、初めて開催した年齢別の保護者会では、各クラスが年間の取組を伝えるとともに、園長が保育のポイントを説明し、戸外活動を含む園の保育等は、入園時や見学时に伝えることを大切にしている。誉める保育や異年齢保育、一斉の「いただきます」をしない訳、「もりんびっく」運動会という名を使用しない訳などをテーマにした園長コラムを掲載した園便りを通じて、法人や園が目指す保育の考えを伝えることで、保護者の理解が深まるよう取り組んでいる。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>近隣にある資源を利用して、子どもたちがさまざまな体験を得られるようにしている</p> <p>一斉保育を行っていない本園では、子ども一人当たり月に1～2回の頻度で、園周辺にある公園等に散歩に行っている。散歩途中にある生花店や熱帯魚屋で、季節の花や金魚等を見るほか、ケーキ屋では誕生日が自分の誕生ケーキを買っている。5歳児は就学に向け、散歩時に近隣の小学校の校庭や体育の様子を見学するほか、クッキングの食材の買い物に、駅周辺の商店へバスを利用して行っており、公共マナーを学ぶ機会となっている。また、年に数回、法人が所有するバスを園長が運転し、隣接する市等の離れた施設へ、遊びに行く機会も設けられている。</p> <p>子どもたちが、職員以外の人々との交流ができるよう、取り組んでいる</p> <p>散歩に出た際は、出会う地域の人々と挨拶を交わしている。ハロウィンでは、近隣系列園と合同で行い、4・5歳同士が仮装して交流するほか、近くの生花店では、園が用意したお菓子を配ってもらうなどの関わり合いが持たれている。また今年度は、保育士養成校からの実習生や、近隣小学校から教員の研修を受け入れ、保育の中で子どもたちとのふれ合いが持たれるなど、子どもたちが職員以外の人々との交流を通じて、社会性を育む機会となるようにしている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	子どもがそれぞれに遊び込み、認め誉められることで自己肯定感が高まるようにしている	
内容①	子どもが主体的に活動できる環境として、保育者が子どもの興味や関心を把握し、発達の特徴を理解するとともに、子どもが自ら遊びを試行錯誤しながら探究心を深め、継続的に取り組める環境づくりを行っている。保育者は人的環境の一つとして声の大きさや言葉のかけ方、歩き方や速度などを常に振り返り、子どもが集中して取り組んでいる環境を見守れるようにしている。またできた喜びや遊びの援助などのタイミングを見定め、一人ひとりの表現を認め誉めることで、子どもの自己肯定感を育み、自信や次への意欲につながるような保育の展開に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	園の取組への理解や子どもの様子の共有に向け、保護者への情報等の発信に努めている	
内容②	コロナ禍に伴い、その発生状況に応じた入室制限により、園の様子をうかがい知れない保護者の安心につなげられるよう、子どもの様子や園の取組を伝えることに、昨年度から継続して取り組んでいる。各種便りによる発信に加え、1・2階の各様子を週に1度、玄関に設置の2台のモニターで写真・動画を放映するほか、週2日の園内掲示と通信アプリの配信によって、乳児・幼児の各様子を伝えている。今年度は、保護者が参加しない行事の動画を配信するほか、学年別の保護者会を初めて開催し、園・クラスの取組や子どもの様子を保護者に説明している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル③	園や保育の目指す姿、職員としての規範などを、組織として共有する取組に注力している	
内容③	毎月の会議では、年度開始時に法人の理念等を確認するほか、職員としての規範や法人の目指す保育のあり方等について、園長が折に触れて啓発を行っている。また現場の意欲と保育の質をともに高めるべく、園長が各階の保育の視察を行い、称賛や改善課題を具体的に伝える、「保育視察」と題した取組も実施している。さらに、法人の保育者としてその時その場で最善の判断・対応を行うことを求める「演じよう！」を年度のテーマとし、乳児・幼児でもそれぞれフロアごとに話し合い、行動目標を定めるなど、組織の方向性の明確化と共有にも取り組んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども一人ひとりへの理解や共感に努め、それぞれの思いや生活リズムを把握して、子どもに寄り添った保育を展開している
	内容	保育活動・食事・午睡等の園での生活リズムは、一人ひとりのリズムや欲求を尊重した時間の流れとなるような保育の実践に努めている。保育者は子どもの存在そのものを誉める姿勢で子どもたちに向き合い、それぞれの思いや行動を子ども・保育者同士で共有しながら、一人ひとりへの理解・共感の意識を持って子どもに寄り添うことを大切にし、各階の会議は多様な視点で子どもの情報を共有する場とし、子どもの多面的な姿を通して成長を喜び、課題が見られた子どもには肯定的な関わり方について検討をするなど、目指す保育の実現に向けて取り組んでいる。
2	タイトル	行事では仲間との協力や作り上げる喜びを重ね、発表の場での経験から成長の喜びを感じるとともに、それらを保護者とも共有している
	内容	行事は日頃から親しむ遊びや継続的に取り組む内容を披露する場としており、取り組む過程での子どもの様子を保護者に発信し、伝えていくことで、保育や行事への理解が深まるようにしている。行事に応じて親子で運動遊びやダンス、競技を楽しんだり、異年齢の子どもたちが音楽劇や歌を発表するなど、保護者の前で自信を持って披露する中で、参加するすべての人が子どもの姿を通して成長の喜びを感じる内容としている。また5歳児の「デイキャンプ」は保育者の何をしようかとの問いかけから始められ、子どもの意見を反映した一日を計画・実践している。
3	タイトル	さまざまな取組を通じて、保護者との信頼関係の形成に取り組んでいる
	内容	保護者との交流が、コロナ禍に伴って制限される中であっても、登降園の時間帯に園長が事務室を出て保護者とのコミュニケーションを図ることを心がけている。今年度は学年別の保護者会を初めて開催する等、多様な方法・媒体によって、園の保育や子どもたちの姿を保護者に伝えるほか、入園時の説明は時間をかけて丁寧に行い、園の保育や利用にあたっての約束事などの共通理解の形成に努めている。通信アプリを活用したアンケートによって、保護者の意向の把握と活用をするなど、さまざまな取組を通じて、保護者との信頼関係を醸成している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域資源を活用した体験や、職員以外の人々との交流の機会の充実に向けた、今後の園の取組を期待したい
	内容	公園等への散歩やバスを利用した駅前施設への買い物など、地域資源を活用して、子どもたちがさまざまな体験を得られるよう取り組んでいる。また、保育士養成校からの実習生や、近隣小学校からの教員の研修を受け入れるほか、近隣系列園との交流を行うなど、職員以外の人々との交流機会を設けている。子どもたちの体験や交流の機会のさらなる充実を課題とし、安全面にも配慮しつつ、地域の未就園世帯への園庭解放や絵本の貸し出し事業の実施などの検討を進めている。今後の検討とその実現に向けた園の取組を期待したい。
2	タイトル	防災訓練の実効性の向上やBCPの現状に即した更新と周知の取組など、危機管理に関する組織の体制のさらなる強化を図りたい
	内容	若手中心の組織の現状などから、避難訓練の実効性を高めることを課題としており、毎月の会議で直近の訓練の反省を行うとともに、毎回の訓練内容も当初の計画にこだわらず見直すなど、防災面の基礎力向上を図っている。また災害及び感染症の発生を想定した業務継続計画（BCP）についても、内容は作成当時のままとなっていることから、現況に合わせた内容の更新が望まれるほか、実際の発動を滞りなく進めるための、研修・訓練等による周知にも取り組むことが望まれる。これらの取組が、危機管理に関する園の体制の強化に寄与するものと思われる。
3	タイトル	中・長期計画は記載内容を整理・再編し、年度事業計画とも関連づけつつ組織全体で共有を図り、今後数年の園運営に活かすことを期待したい
	内容	園長作成の一昨年度から5か年の中・長期計画では、利用者にも職員にも「選ばれる園」となることを「目指すべき目標」とし、それを軸に、事業環境に関する情報収集と、園の機能や価値の効果的な発信、人材の確保・育成をはじめとする経営体制全般の強化などを取組として定めている。同計画は「どこを目指し、何を行うか」がよりわかりやすくなるよう、記載内容を適宜整理・再編するとともに、年度の事業計画との関連も明確にしたうえで、経営層間、さらには組織全体で共有し、園運営や課題解決の工程表として活かしてゆくことを期待したい。